研究タイトル：

物語とレトリック／外国語教育

氏名：	萩原　康一郎／HAGIWARA Koichiro	E-mail：	hagiwara@numazu-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士
所属学会・協会：	文芸学研究会、全国高等専門学校英語教育学会		

キーワード：	文芸学、文学理論、英語教育、CLIL、アクティブラーニング、ディベート、科学技術の歴史と倫理
技術相談 提供可能技術：	・文芸学、文学理論、物語論、解釈学、分析美学の講義と指導 ・修辞学・レトリックの講義とディベート指導 ・哲学、文学、言語学、社会学、神話学に関する教養レベルの講義と指導 ・アクティブラーニングを主体とした外国語教育授業の設計支援・教員研修 ・英語・フランス語・アカデミックスキルの指導

研究内容：

・文芸学・文学理論・物語論・レトリック

文字で書かれ、書物として読まれてきた古典作品を研究対象とする日本文学や英米文学などの個別の各国文学研究とは異なり、文芸学（Literaturwissenschaft）は、神話や伝説、民話など口頭で語り伝えられてきた広義の文芸をも含め、芸術の一様式として文芸を扱う学問領域です。文芸学の目的の一つに、文芸と人間の知とのかかわりや文芸の人間学的な存在意義を解明することがあります。文芸学の立場でフランスや英米の文学理論を読解し解釈しながら、文学的フィクションが人間のどのような世界認識の在り方に根差しており、どのような原理をもって生成されるのかを解明することが、私の研究テーマの一つです。また、物語る行為ならびにその所産としての物語が、とりもなおさず人間の言語的活動に根ざしているという観点から、レトリック（弁論術、修辞学）についても関心を寄せています。古典レトリックの現代的展開として比喩論や認知言語学についても研究してきましたが、最近は、授業で学生とともに実践しているディベート活動を、西洋の弁論術の歴史の文脈に位置づけなおして考えることを構想しています。

・英語の授業を通じたアクティブラーニングおよび CLIL の実践とその効果に関する研究

学生を英語の継続的な学習へと動機付けるべく、日々の授業で様々な学習手法を開発し、実践しています。一つは3年生を中心に行っているゲームの手法を応用したクエスト型授業のデザインと、その過程で行われる英語を用いたディベート活動等のアクティブラーニングの実践です。クエスト型授業とは、学生が自らの目標と課題に応じて、「読む、聞く、書く、話す」の4技能に関する諸活動のリストから自由に学習内容を選択し、取り組んだ結果や学習の成果に応じてポイントが付与される仕組みです。学生が自らの学びを能動的にデザインすることができるようにして、学習への動機づけを高める工夫をしています。また、授業内でビブリオバトルやディベート活動などのイベントを設け、アウトプット学習が自然と促進されるよう設計しています。

これとは別に、今年度から 5 年生を対象にテクノロジーの歴史と先端技術の倫理について考える CLIL 型授業を実践しています。前期は、人類の歴史のメルクマールとなった技術革新に関する英語の文献を読み、そこから問いを深めて、英語を用いたプレゼンテーションにつなげる形の授業を構想し、現在実践中です。

以上のようなアクティブラーニング主体の教育手法が学習者の外国語運用能力や学習意欲、批判的推論能力や倫理的関心にどのような影響をもたらすかを見て取ることが私の研究テーマのもう一つの柱です。

教養科

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	